ZOOM UP

ズームアップ

商社の人と仕事

# 「地球環境浄化型商社」の新機能

能見（のうみ） 雅弘（まさひろ）
住金物産グリーンチーム株式会社
常務取締役

## 会社の立ち上げ

住金物産グリーンチームは、住金物産のグループ企業で、2007年10月にスタートした「地球環境浄化型商社」です。お客さま満足度No.1をめざす加工メーカー型商社として、いつでも、どこでも、一番頼もしい存在でありたい。お客さまから託された夢や希望、課題や要求をいち早く理解し、お客さま自身もまだ気付いていないかもしれない、本当の価値や新しい方向性を探る。そして、より良い未来の創造に向けた新事業を考え、ビジネスとして社会に対して貢献できる住金物産グループの新事業チームとして、複合酵素「SBN酵素」を使用した焼酎廃液処理システムの販売を展開しています。

会社は、九州鹿児島市の桜島フェリー乗り場の近くで、錦江湾を挟んで対岸に白煙を吐く桜島が見える、昔からのオフィス街にあります。鹿児島の人々は素朴で人情味があり、南国の気質が今も感じられる住みやすい土地柄です。鹿児島に会社を設立した理由は、この事業の核である廃水処理を行うのに適地であったためです。鹿児島は焼酎製造のメッカであり、製造時に焼酎廃液が大量に発生し、それを処分するために焼酎メーカーは、多額の処理費を中間処理業者に支払っています。

私がこの酵素処理技術に関心を持ったのは、自然界に対して悪影響がないということや処理スピードなど驚異的な浄水効果が実現できる点など、環境に極めてやさしく、幅広い事業に応用できると確信したからです。最初は、鉄鋼カンパニーの鹿児島営業所の中で、通常の営業をしながら実証テストを行う日々が一年数ヵ月間続き、やっと、鹿児島市七つ島にある現在の焼酎廃液処理実機プラントが完成しました（私自身は、鉄鋼営業ひとすじの鉄鋼マンでしたが…）。

## 焼酎廃液処理プラント

なぜ、焼酎廃液処理を行うのかというと、焼酎廃液の海洋投棄処理が、ロンドン条約およびその1996年の議定書に基づく国内法令によって、2007年4月1日より原則禁止となったからです。ロンドン条約とは、1972年の廃棄物その他の物の投棄による海洋汚染の防止に関する条約の通称で、国際連合憲章および国際法の諸原則に基づき、海洋環境を汚染するすべての原因を効果的に規制するものです。焼酎廃液の海洋投棄には処分許可申請が必要となり、許可されないと投棄はできないことになりました。このた

め、行き場を失った焼酎廃液は、さまざまな処理方法で陸上処理するのが主流となっています。

当社が開発した焼酎廃液処理プラントは、循環型社会に対応したシステムで、ゼロエミッション機能を持ち合わせている廃棄物ゼロの、ほかにはない特徴を持ったシステムです。システムの流れは至ってシンプルです。

まず、SBN酵素を入れ、①焼酎廃液を固液分離します。②分離された固体は乾燥機で乾燥させ、牛や豚の飼料とします（焼酎原料は芋、麦、米等なので栄養価も高く良質の飼料となります。現在、トウモロコシ等の穀物価格高騰により、畜産農家が苦戦を強いられている状態であり、少しはお役に立てるのではないでしょうか）。③分離された液体は浄化槽に入れ、SBN酵素で活性化されたバクテリアの働きにより効果的に分解され、BOD（生物化学的酸素要求量）、COD（化学的酸素要求量）とも一ケタ台の驚くほど浄化された水（メダカが泳げるくらいの水）となります。

この浄化された水は希釈水として再利用できるほか、酵素が含まれているため、河川に放流すると河川を浄化していく効果もあり、また液肥として農業分野での使用も可能となります。

## 環境問題

地球上に生きる私たち人類は、地球上の資源を利用して人間社会の維持を行ってきましたが、需要と供給の経済システムを優先しすぎたのか、地球の健康状態がおかしくなり、地球温暖化、水質汚染、大気汚染、土壌汚染など自然界の浄化能力では追いつかないほど深刻な状態が続いています。

この悪循環を少しでも改善できればというのが、われわれ住金物産グリーンチームです。社名のグリーンチームの濁点を取ると「クリーンチーム」になります。世の中をきれいに浄化したいメンバーと、複合酵素を使用した技術の両方が「クリーン」の上に濁点として並ぶと社名のグリーンチームになります。

焼酎廃液処理プラント

まずはSBN酵素を使用して有害物質を分解し、自然界に還元しやすい状態を作り上げ、地球環境浄化を行います。人類が開発した都市や森林、河川などにSBN酵素を使用することで、自然破壊のスピードは減速し、環境保護に役立ちます。お客さま満足度No.1をめざす加工メーカー型商社としての責任として、商品の開発から生産、流通、販売、回収、再生というシステムに、LCA（ライフサイクルアセスメント）を導入するのは当たり前の時代です。

## 地球環境浄化型商社としての課題

商品を売って利益を得るビジネススタイルからエコロジーを取り入れたグリーン商品へ、鉄の販売から回収、再生のリサイクルシステムも、地球の鉄資源を大切に使用することから始まりました。水も土も再資源として使用するためには、適正な処理が必要です。SBN酵素の使用は、水や土壌処理以外にも応用できます。今、世界的に高騰している石油の代替燃料（国産バイオ燃料）の生産にも、この使用が期待されています。地球環境に負荷をかける商品から、負荷をかけないグリーン商品の生産に必要不可欠なのが、複合酵素「SBN酵素」だと考えています。

今後は、複合酵素の応用範囲検証のための専門チームを編成し、国内外に対応できる知識人、経験者の陣容を強化したいと思っています。JFTC